

## ⑫ 公開特許公報(A)

昭61-194009

⑤Int.Cl.<sup>4</sup>  
A 61 K 7/02

識別記号

庁内整理番号  
7306-4C

④公開 昭和61年(1986)8月28日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑬発明の名称 メークアップ化粧料

⑭特 願 昭60-33381

⑮出 願 昭60(1985)2月21日

⑯発 明 者 原 島 朝 雄 市原市有秋台西1丁目6

⑰出 願 人 トーレ・シリコーン株 東京都中央区日本橋室町2丁目8番地  
式会社

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

メークアップ化粧料

## 2. 特許請求の範囲

オルガノポリシロキサン硬化物粉体を含む有し  
てなることを特徴とするメークアップ化粧料。

## 3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明はメークアップ化粧料に関するものであり、さらに詳しくはオルガノポリシロキサン粉体を含む有するメークアップ化粧料に関するものである。

〔従来技術〕

従来、メークアップ化粧料に使用される粉体としては、タルク、カオリン、ベントナイト、無水ケイ酸、炭化ケイ素、アルミナ、酸化チタン、カーボンブラック、グラファイト、黄酸化鉄、ベンガラ、マイカ、マイカチタン、酸化ジルコニウム、セリサイト、カラミン、群青等の無機顔料粉体が多く利用されている。

また、ポリエチレン樹脂、ポリプロピレン樹脂、ポリアミド樹脂、アクリル樹脂、塩化ビニ

ル樹脂、エポキシ樹脂、ポリスチロール樹脂のような有機合成樹脂を化粧料に添加した例も知られている(特開昭52-99236号公報参照)。

〔発明が解決しようとする問題点〕

しかしながら、上記したメークアップ化粧料用無機顔料粉体は、色相の鮮明さ、着色力、透明性に欠けるという欠点があった。また、該無機顔料粉体は一般に天然鉱物を粉碎することにより製造されるが、粒子形状が不規則であるために、メークアップ化粧料として塗擦時のなめらかさ、伸びに欠けるという欠点があった。

また、有機合成樹脂粉体を化粧料に添加した場合でも自然な色彩感を付与する効果はなかった。

本発明は上記して欠点を解消することを目的とし、なめらかな塗擦感で、しっとりとした感触を有しかつ健康的で自然な色彩感を付与することのできるメークアップ化粧料を提供するものである。

〔問題点を解決するための手段および作用の説明〕

上記した目的は、オルガノポリシロキサン硬化物粉体を含有してなることを特徴とするメイクアップ化粧料により達成することができる。

これを説明するに、本発明で使用されるオルガノポリシロキサン硬化物粉体は、本発明メイクアップ化粧料の肌への塗擦感をなめらかにし、しっとり感を与え、かつ顔料に対し鮮明な色相、着色力、透明性を付与し、健康的な色彩感を与えるために必要な成分である。

本成分のオルガノポリシロキサン硬化物粉体の原料となる硬化性オルガノポリシロキサン組成物の種類は特に限定されるものでなく、白金系触媒存在下に付加反応により硬化するオルガノポリシロキサンエラストマー組成物、縮合反応により硬化するオルガノポリシロキサンエラストマー組成物(ここで縮合反応として脱水、脱水素、脱アルコール、脱オキシム、脱アミン、脱アミド、脱カルボン酸、脱ケトンが例示される)、有機過酸化物により加熱下硬化するオルガノポリシロキサンエラストマー組成物、 $\gamma$ 線、

紫外線もしくは電子線照射により硬化するオルガノポリシロキサンエラストマー組成物あるいは上記の各反応により硬化するオルガノポリシロキサンレジン組成物が例示される。

上述した硬化性オルガノポリシロキサン組成物の主剤となるオルガノポリシロキサンのけい素原子に結合する有機基として、は一価炭化水素基が例示され、これにはメチル基、エチル基、プロピル基、ブチル基、オクチル基のようなアルキル基、ビニル基、アリル基、プロベニル基のようなアルケニル基、2-フェニルエチル基、2-フェニルプロピル基、3・3・3-トリフルオロプロピル基のような置換アルキル基、フェニル基、トリル基、キシリル基のようなアリール基、フェニルエチル基のような置換アリール基あるいはエポキシ基、アミノ基、水酸基、カルボキシ基、カルボン酸エステル基もしくはメルカプト基を有する一価炭化水素基などが例示される。

本成分は、上述したオルガノポリシロキサンを主剤とする熱硬化性組成物を熱気流中に噴霧し硬化させて粉体を得る方法や、上述したオル

ガノポリシロキサンを主剤とするエネルギー線硬化性組成物を高エネルギー照射下で噴霧し硬化させて粉体を得る方法や、上述したオルガノポリシロキサンを主剤とする熱硬化性組成物を加熱下あるいは上述したオルガノポリシロキサンを主剤とするエネルギー線硬化性組成物をエネルギー線照射下で硬化させたものをボールミル、アトマイザーなどの公知の粉碎機により粉碎して粉体を得る方法等により製造することができる。

結合油剤を均一に分散配合することにより得ることができる。

顔料粉体としては、タルク、カオリン、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、ケイ酸マグネシウム、無水ケイ酸のような体質顔料、酸化チタン、酸化亜鉛のような白色顔料、ベンガラ、黄酸化鉄、酸化クロム、水酸化クロム、カーボンブラック、群青のような無機着色顔料、タール色素、紅花色素、 $\beta$ -カロチン、コチニール、クロロフィルのような有機着色顔料、魚鱗屑、オキシ塩化ビスマス、雲母チタン、マイカのようなパール顔料などが例示される。

本成分の配合量としては化粧料の使用形態により異なり、特に限定されないが、プレス状メイクアップ化粧料においては1.0~50重量%が好ましく、また、液状メイクアップ化粧料においては0.1~30重量%が好ましい。

本発明のメイクアップ化粧料を得るにはオルガノポリシロキサン硬化物粉体、顔料粉体およ

び結合油剤としては、流動パラフィン、スクワラン、ワセリン、ポリイソブチレン、マイクロワックス、イソプロピルミリスレート、ミリスチルオクチルドデカノール、ジ-(2-エチルヘキシル)サクシネート、ジイソオクタン酸ネオペンチルグリコール、モノステアリン酸グリセリン、イソステアリン酸トリグリセライド、ヤシ油脂肪酸トリグリセライド、ヒマシ油、エタノール、オクチルドデカノール、ヘキサデシルアルコール、セチルアルコール、オレイルア

ルコール、ステアリルアルコール、ポリエチレングリコール、ウラリン酸、パルミチン酸、オレイン酸、ステアリン酸、イソステアリン酸、ラノリン、ミツロウ、オリーブ油のような炭化水素、エステル、グリセライド、低級アルコール、高級アルコール、多価アルコール、高級脂肪酸あるいはオルガノポリシロキサン流体などが例示される。

本発明のメークアップ化粧料には必要に応じて、さらに水、界面活性剤、増粘剤、防腐剤、香料などを配合してもよい。

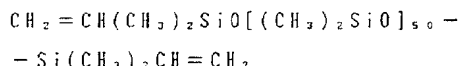
#### [実施例]

次に本発明を実施例により説明する。

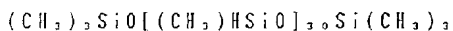
実施例中、部とあるのは重量部を意味する。

#### 実施例 1

式



で示される両末端ジメチルビニルシリル基封鎖ジメチルポリシロキサン 100 部、式



で示される両末端トリメチルシリル基封鎖メチ

#### 実施例 2

メチルトリメトキシシラン 20 部、ジメチルジメトキシシラン 50 部、トリメチルメトキシシラン 20 部およびテトラエチルシリケート 30 部に pH 4.0 に調整した塩酸水溶液 500 部を加えて 5 時間加水分解縮合し、加熱乾燥させてオルガノポリシロキサンレジン硬化物を得た。次にこのオルガノポリシロキサンレジン硬化物をアトマイザーで微細粉砕した。得られたオルガノポリシロキサンレジン硬化物粉体は走査型電子顕微鏡の観察により 0.5 ~ 1.0 ミクロンの粒径であることが確認された。

このオルガノポリシロキサン硬化物粉体を第 2 表に示すような組成でファウンデーション(プレス成型物)を製造した。また、オルガノポリシロキサン硬化物粉体を添加しないものを比較例とした。

これらのファウンデーションを 10 人のパネラーを用いて塗布試験を行なったところ、本発明のファウンデーションは比較例に比べ、健康的で自然な肌色を彩色することができ、またなめらかな塗擦感としっとりとした感触を有して

ルハイドロジェンポリシロキサン 3.5 部、3-メチル-1-ブチン-3-オール 0.1 部およびオルガノポリシロキサン全量に対し白金金属自体として 10 ppm となるような量の塩化白金酸イソプロパノール溶液を均一に混合し、150℃、2 時間で硬化させた。このオルガノポリシロキサンエラストマー硬化物をアトマイザーで微細粉砕した。得られたオルガノポリシロキサン硬化物粉体は、走査型電子顕微鏡の観察により 1 ~ 5.0 ミクロンの粒径であることが確認された。

次にこのオルガノポリシロキサン硬化物粉体を使用して、第 1 表に示すような組成で油性アイライナーを製造した。また、オルガノポリシロキサン硬化物粉体を添加しないものを比較例とした。

これらの油性アイライナーを 10 人のパネラーを用いて塗布試験を行なったところ、本発明の油性アイライナーは比較例に比べ、色に深みがあって鮮明なアイラインを形成することができ、またしっとりとした感触を有しており塗擦感もなめらかであった。

いた。



第 1 表

カルナバロウ	5.3部
ミツロウ	9.0部
マイクロクリスタリンロウ	9.7部
白色ワセリン	1.0部
流動パラフィン	20.0部
デカメチルシクロペンタシロキサン	18.0部
両末端トリメチルシリル基封鎖ジメチルポリシロキサン〔粘度2センチストークス(25℃)〕	32.0部
有機ベントナイト	0.5部
酸化チタン	1.5部
カーボンブラック	3.0部
オルガノポリシロキサン硬化物粉体	5.0部
防腐剤	微量

第 2 表

酸化チタン	12.0部
酸化亜鉛	9.5部
カオリン	35.0部
タルク	20.0部
ベンガラ	0.8部
黄酸化鉄	2.5部
黒酸化鉄	0.2部
流動パラフィン	4.0部
オクタメチルシクロテトラシロキサン	5.0部
両末端トリメチルシリル基封鎖ジメチルポリシロキサン〔粘度2センチストークス(25℃)〕	5.0部
パルミチン酸イソプロピル	3.0部
グリセリン	3.0部
オルガノポリシロキサン硬化物粉体	7.0部
防腐剤	微量
香料	微量

## [発明の効果]

本発明によれば、オルガノポリシロキサン硬化物粉体を含有しているので、なめらかな塗擦感でしっとりとした感触を有し、かつ、健康的で自然な色彩感を付与することのできるメークアップ化粧料を提供することができる。

特許出願人 トーレ・シリコン株式会社